

水に関する漢字とひたちなか市の地名の関係

ひたちなか市立勝田第三中学校

1年 井上 寧々



水に関する地名の選定

【さんずい】

水に関する語源がもとなる漢字だから

【海】

海の近くである可能性が高いから

【磯】

海岸の近くである可能性が高いから

【川】

川沿いである可能性が高いから

【雨】

雨に関わる水害があった可能性が高いから

【動機】

私達家族が引っ越し際に祖母が「地名にさんずいが付いているから、水害があった地域なのでは？」と言われて母はとても気にした、という話を聞いた。

ひたちなか市には海と川があり、地名と関係がある

のか気になったので調べることにした。

【1級河川】

国土保全・国民経済上、特に重要な水系、国で管理している。

【準用河川】

1級・2級河川以外の河川。河川法適用。市で管理している。

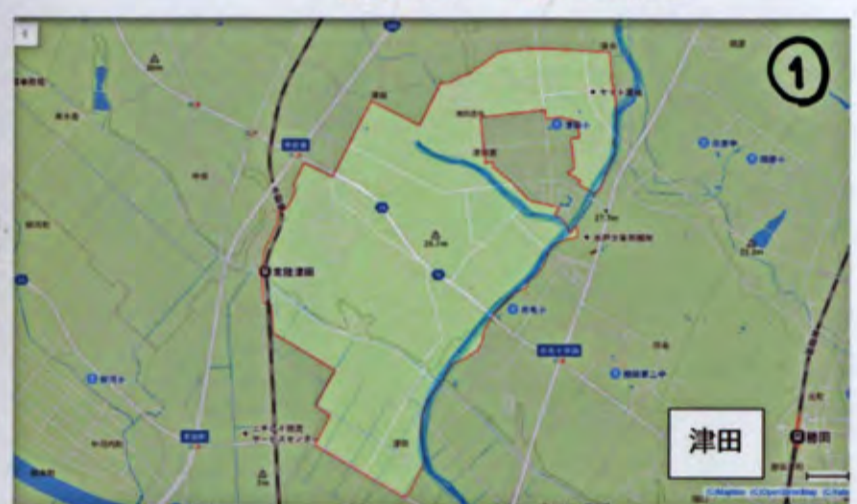
【普通河川】

1級・2級・普通河川以外の法外公共河川。市で管理。

【雨水幹線】

道路側溝などに集まった雨水を、河川へ排出するための雨水管。

ツイ ヲダヒカク
【津田・津田東】



那珂川が枝分かれした早戸川に面していた。津田東には大きめの貯水地があった。台風などで水害があるのかもしれない。

エダウ
【枝川】



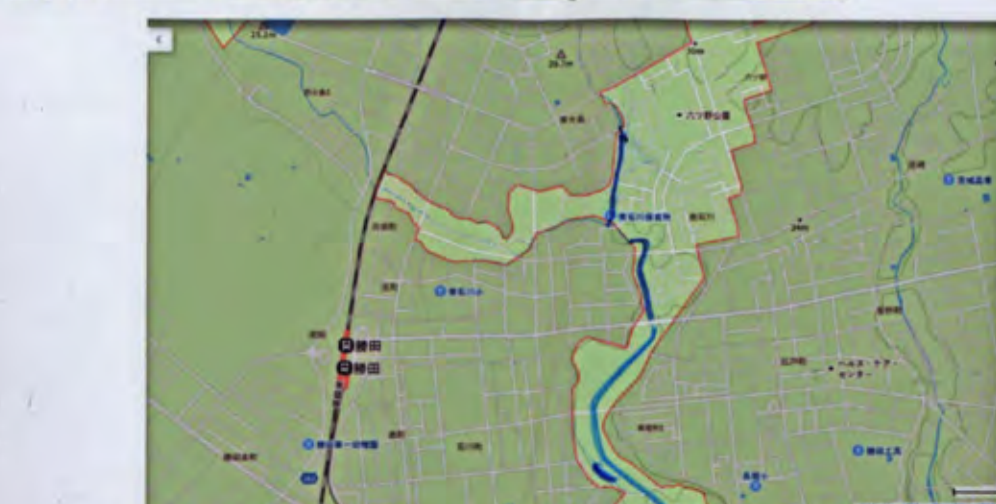
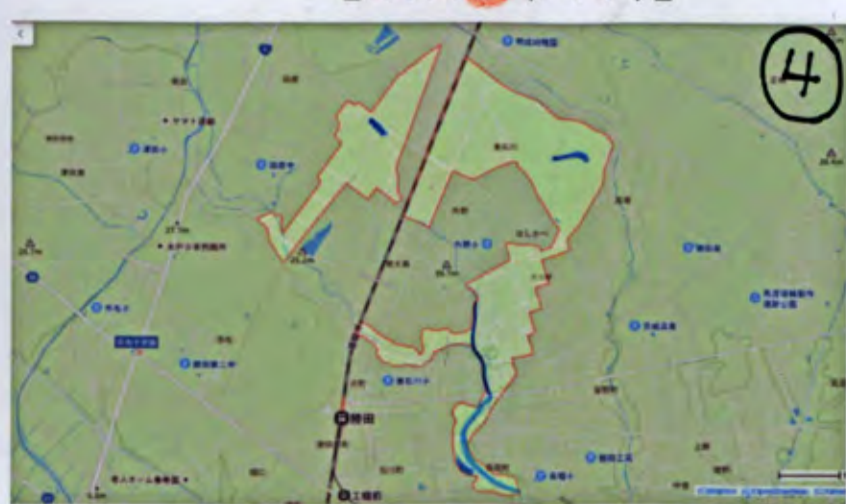
那珂川に面して、枝分かれした川もたくさんあり名前通りの町。大きな台風や雨がたたくと洪水になる。

【目的】

地名と海や河川の関係が分かれば、ひたちなか市に引っ越してくる人へ水害の注意喚起が出来るし、地形を良く知ってもらえると思う。

現在住んでいる人へも、地形の理解や水害への対策になったらいいと思った。

ヒガシヒカク
【東石(大宇)】

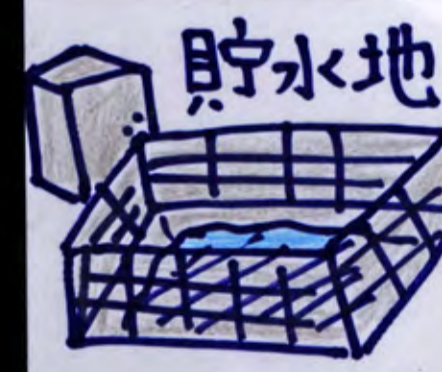


川があり、大きめの貯水地がいくつかある。

チキヤウ
【柳沢】



川が通っているが沢というほど上流ではない。でも貯水地が多いため水害がありそう。



貯水地

ヒガシヒカク
【東石(小)】



近くに川がある。この川を雨水幹線系とつながる川。駅があって人が多い。

アメウヤウ
【雨沢谷津】



沢がついているので川に面しているのかもしれないが、でも名前にある通り谷になっていて、雨がたまりやすいのかもしれない。

カイモンヤウ
【海門町】



名前の通り川と海の間のような感じ。思った。



ミナトヤウ

【泰泉町・湊中央・湊中原・湊本町】



海に面している湊本町で魚をとってまわりの町で加工して売っているのかもしれない。

マワリ
【馬渡】



小さな川で台風でも水害にはなさないそう。でも雨水幹線とつながっている重要な川。

ヒライヤウ
【平磯町】



平磯町は海に面して、磯崎町同様、岩があると思う。平磯遠原町は、もしかしたら昔広い野原があったが、平磯町と分けたのかもしれない。

インガキヤウ
【磯崎町】



海に面していた。磯崎がつくが、岩がたくさんあるのかもしれない。河川はない。

アウケヤウ
【阿字ヶ浦町】



海に面していた。海水浴場がある。河川はない。

ヒライトオハラヤウ
【平磯遠原町】



沢なので川の上流かと思いましたが、河川はない。

メキ
【メキ】



沢なので川の上流かと思いましたが、河川はない。

フナガ
【船窪】



船着場があると思ったが、海に面してなかった。船をつくる工場があるのかもしれない。

トビサヤウ
【洞下町】



田の下に洞くつがあるのかもしれない。海や川に面していない。

【考察・感想】

海の近くの地域には(浦)や(磯)がつく地名があり、名前前から海を連想しやすいなと思った。
(湊)がつく地域には(船)がつく地名が近くにあったり、水産を連想しやすく、人口が多いのかなと思った。
那珂川の近くの地域には(さんずい)がつく地名が多く、準河川も多いので、水量の差が気になった。
直接河川がなくても貯水池や雨水幹線がある地域もあった。
結果、水に関する地名の地域には水害の跡だけでなく、水に関する人工物が多いことに気づいた。
過去の水害のおかげでハザードマップがつくられたり、貯水池がつくられたりして、今は台風や地震のたびに水害が起こることもなく、過ごせていることがわかりました。
ただ自然はいつも予測がしにくいので、いつでも警戒をしていきたいとも思いました。
地名と河川の直接的な関係は、もっと時間をさかのぼり、昔の地図を調べれば今回と結果が変わるのかもしれないなとも思いました。今後調べてみたいと思います。